

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 第9回定時社員総会開催される

当協会は、第9回定時社員総会を令和元年6月10日（月）に東京都港区芝公園二丁目のメルパルク東京において、多数のご来賓、会員、報道関係者出席のもと開催しました。

原田会長は、冒頭の挨拶の中で、「我が国の経済は、雇用・所得が改善して緩やかな回復基調が続いているといわれているが、先行きについては、海外における政治経済情勢の不確実性等により、不透明な状況が続いている。

プレカット工場については、これらを背景に堅調に推移しましたが、業界を取り巻く環境も厳しいものとなったため、本格的な業況の回復には結びつかなかった。

このような中で、平成30年度の新設住宅着工戸数は、9万3千戸と前年度に比べて+0.7%と昨年度の減少から増加に転じ、住宅需要の回復が一段落した状況になった。

我が国の森林資源のポテンシャルは着実に増大している。木材自給率50%の実現に向けた総合的な木材利用の推進や加工流通体制確立等の施策展開が進められ、これからの木材産業の成長産業化へ進展が期待されている。プレカット加工業は木材生産と木造建築物生産分野の接点に位置している。

安全・安心の住宅供給のためには、品等格付けされた資材の使用とともに、住宅の構造計画を担うCADオペレーターの役割は重要である。昨年度、当協会が技術支援対策として実施したCAD技術者研修には全国で約100名の受講者があり、また、プレカットCAD技術者認定登録においてはこれまでに延べ463名が登録し、うち6割は会員外の工場に所属している。本年度においても、より一層この取り組みを深化させるとともに、プレカット加工CADを活用した各種の木造住宅建築に関するサービスの支援を行っていく所存である。また、会員を対象とした合法木材供給事業者認定の実施、業務支援として、非住宅木造建築物も加えたプレカット部材瑕疵保証事業の推進のほか、会員の経営安定のためのリスク保全事業として「プレカットミス賠償責任保険制度」による事業を行っている。

ご来賓をはじめ関係者の皆様には、今後とも当協会に対してよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。」と、厳しい環境の中においても協会活動の活性化に向けた決意が述べられました。

また、来賓を代表して、林野庁木材産業課長 眞城英一様からは、「日頃より林野行政の推進に、格別の御理解と御協力を賜り、この場をお借りして御礼申し上げます。



原田会長の挨拶



林野庁 眞城課長の祝辞

また、研修を通じた技術支援や人材育成などにより、CADオペレーターの能力向上を図り、部材の品質の確保等に精力的に取り組んでおられることに対して、深く敬意を表する。

木材の自給率は7年連続で上昇し、36%を超えるという状況にある。今まさに緑がよみがえって充実しているという状況であり、これを今後、「伐って、使って、植える」という循環利用を進めることが将来に向けての大きな課題となっている。

木材の利用を進めるために、非住宅分野での需要を創出していくということが重要。また、建物のかなりの部分が存在している都市部に注目しており、都市部における木材の利用促進にも着目しながら、JAS製品の普及や中高層建築物に活用可能な木質耐火部材の開発・普及に向けた取組を強化していきたいと考えている。

また、加工流通の効率化については、川上から川下まで事業者間での需給の情報を共有し、流通の効率化を図るといった観点から、サプライチェーンの構築を推進しており、全国7ヶ所で、サプライチェーンのプラットフォーム作りを始めている。」との祝辞がありました。

次に、国土交通省住宅局木造住宅振興室長 成田潤也様からは、「今国会で建築物省エネ法（建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律）を改正させていただきましたが、建築物については省エネ基準の適合義務を2,000㎡以上から300㎡以上に引き下げ、住宅については、設計者から建築主への説明義務を課すということを織り込んでいる。

また、昨年、建築基準法を改正させていただき、今月末に施行の予定ですが、木造関係の部分では、特に、中高層建築物について防火関係の規制を合理化し、木の良さを実感できるように木材がそのまま見える「あらわし」で使いやすくするといった改正を盛り込んでいる。



国土交通省 成田室長の祝辞

補助金関係では、長期優良住宅をはじめとした良質な地域の木材を活用した木造住宅の供給ということで地域型住宅グリーン化事業に取り組んでいる。是非とも皆様方のご活用のごほどお願い申し上げます。

さらに、住宅のみならず、非住宅の分野、中高層の分野でより一層木造化若しくは木質化を進めようということで、関係団体の皆さんとその普及促進策について検討を進めているところである。皆様方のお知恵をお借りしながら進めていきたいので、是非ともよろしく願います。」との祝辞がありました。

総会の議事では、まず、平成30年度事業報告、収支決算報告が上程され、事務局説明の後、遠藤監事の監査報告があり、原案どおり可決されました。また、役員を選任が行われ、ほと

んどの理事は留任となり、新任には池田誠理事、さらに2名の監事が退任され、後任には飯塚直道・水谷真也両監事が選任されました。

さらに、令和元年度事業計画、収支予算について報告事項として説明され、異議なく了承されました。

総会に引き続き、聖橋法律事務所 弁護士・一級建築士の菅谷朋子氏による「住宅紛争の実情とプレカット事業者に期待される役割」と題した記念講演が行われました。

講演の中では、一級建築士の資格をお持ちの弁護士として、また、ゼネコン設計部出身という実務経験を生かして、1) 住宅紛争の実例の紹介、2) 紛争解決のための「手段」、3) 裁判所など法律目線からプレカットはどのように見られているか、4) プレカット事業者特有の問題などについてご説明いただき、最後に「住宅紛争を減らすためにプレカット事業者に期待される役割」など、今後とも信頼される業界になるための指針をお示しいただきました。



講演中の菅谷朋子弁護士



第9回定時社員総会会場

# 平成30年 協会会員工場基礎調査結果について (第2回)

## — 会員からみたプレカット加工率について —

平成30年12月末現在の会員工場基礎調査結果に基づき、地域別のプレカット加工率を推定しました。その結果、全国平均では92.8%となりました。

会員の皆様には、ご多忙中のところアンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

プレカット加工率 (%)	北海道・東北	関東	中部・近畿	中国・四国・九州	全国計
～84					
85～89	88		85		173
90～94	90、90 90、90	90、90、90、 93	90、90、90、 90、93	90、90、90、 90、90	1,626
95～	95、95、95	95、95、95、 95、95、99、 99	95、95、95、 95、97、99	95、100	1,729
合 計	733	1,036	1,114	645	3,528
(平均)	(91.6)	(94.2)	(92.8)	(92.1)	(92.8)
[前年平均]	[89.7]	[90.3]	[94.0]	[91.0]	[91.7]

### ◇簡単なコメント

- 平成30年12月末の会員が推定する地域のプレカット加工率は、全国平均で92.8%と前回調査(平成29年12月末)に比べて1.1ポイント上昇しました。平成30年の在来軸組住宅の着工数は、41万戸と対前年に比べ-0.5%と微減で、ほぼ前年並みの着工数となりました。プレカット加工率は前年比+1.1%と過去最高の数値となりました。プレカット加工率は平成25年に9割の大台を超えて以降、その拡大傾向は変わらず、プレカット工場が木造住宅生産に欠くことのできないシステムとして位置付けられていると考えられます。
- 全国各地域のプレカット加工率についてみると、中部・近畿地域では、前年比微減となりましたが、北海道・東北を含めて全地域で90%を上回っています。今回調査に回答いただいた工場がいくぶん入れ替わり、数値に若干の変動は見られますが、90～95%の加工率で今後も推移するものと考えられます。  
この調査は、主要構造部材を対象としたプレカット加工率ですが、各工場においては、主要構造部材のほか、これに付随する構造用合板、羽柄材等のプレカット加工も併せて行っており、より多様化したプレカット部材の使用が現場作業の一層の効率化と施工性の向上に寄与していると思われれます。

# プレカット業況調査 (令和元年5月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 47%)

設 問	回答比率 (%)			DI	前回DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	47	40	13	+34	-38
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	20	80	0	+20	+41
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,000円(対前回調査±0円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	7	90	3	+4	-12
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予想しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	0	100	0	±0	+3
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	20	77	3	+17	+9
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	13	77	10	+3	+3
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	23	67	10	+13	-41
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	10	90	0	+10	+41

\*DI=(1)の%- (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\*前回調査: 平成31年2月

## ◇簡単なコメント

5月の各設問のDIをみると、受注額については、5月は好転の会員が半数を占め、3ヵ月後についても悪化はゼロで好転の予想が上回っている。収益についても、5月は好転が悪化を上回っており、3ヵ月後についても悪化はゼロで好転の予想が上回っている。加工単価については大半の会員が変わらぬ状況であり、3ヵ月後についても変動がないと予想している。また、資材の入手状況は、前回同様、容易が困難を上回っており、3ヵ月後についても容易との予想がやや多い。今回の調査では、全ての項目でDIは+以上となっている。今後とも、引き続き受注額と収益の好調さが維持されることを期待したい。

- 1 受注額のDIは+34で前回調査時(平成31年2月期)に比べて、真逆に改善してきている。前回調査時の3ヵ月後の収益予測が+41であった結果が数字に反映されている。また、3ヵ月後の予測のDIは+20と悪化の予想はなく、現状維持若しくは好転すると予想している。
- 2 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは+4とやや改善しているものの大半の会員は変わらずの状況となっている。平均総加工単価も6,000円と3ヵ月前と比べて変わらずとなっている。3ヵ月後の製品加工単価のDIは±0と加工単価の変動はない現状にあるといえる。
- 3 資材入手状況のDIは+17と改善してきている。3ヵ月後の予測DIは+3であり、大半の会員は変化なしだが、今後ともいづれか容易と見通している。
- 4 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは+13と改善がみられている。前回調査時の3ヵ月後の収益予測が+41であった結果が数字に反映されている。さらに、3ヵ月後の収益予測は+10と、悪化はゼロで少数会員からは引き続き好転の見通しとなっている。